



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2023年10月1日 No. 113

わたしはこの最後の者にも、
あなたと同じように支払ってやりたいのだ。

マタイによる福音書 20 章 14 節 ・ 新共同訳



宣教 40 年の旅 -100%感謝して-

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

テサロニケの信徒への手紙一 5 章 16-18 節 a

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒 227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



今日の福音の日課は、「ぶどう園の労働者のたとえ」という有名なたとえになります。第一に「ふさわしい賃金」という約束が示されています。「ふさわしい」と聞いて、朝早く雇われた人たちは、「働いた分」「頑張っただけ」と理解したのでしょうか。支払いの際、「もっともらえと思った」のはそのためです。しかしこの「ふさわしい」と訳されている言葉は、「正しい、正義」という意味を持つのです。ここに明らかにされるのは、最初の労働者たちが、人の働きに対する報酬がふさわしいことを期待したのに対し、主人は「神の正しさ、正義」に基づいたふさわしいこと、すなわち報酬では決してなく恵みについて言い表しているのです。第二に、日本語には訳されていないのですが、たいへん重要な言葉が隠されています。3 節に「9 時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいた」とあります。実はここに訳されていないのは、「見る」という言葉になります。その後の人々、すなわち 12 時、3 時に雇われた人々については「同じようにした」とありますから、9 時、12 時、3 時に雇われた人々を、主人は同じように「見た」にちがいありません。聖書において「見る」とは重要な言葉の一つです。たとえばマタイ 9 章で「群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた」とあります。あるいはルカ 10 章にある「善いサマリア人のたとえ」でも、傷ついて倒れている人を「見て憐れに思い」とあるのです。「見る」は「憐れみ」へとつながっていることがわかります。

それ以降、9 時、12 時、3 時に雇われた人々はすべて、主人が「見た」とあるよう

に、それらはすべて「憐れみ」につながっているのです。そうなりますと、彼らへの一デナリオンは、決して報酬ではなく、恵みであることがわかるのです。さらに 6 節に「5 時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていた」とあります。ここにも「見た」という言葉があるのですが、先の言葉とは違い、「見いだした」と訳される言葉になっています。例をあげるなら、マタイによる福音書 18 章 10 節以下にある、「迷い出た羊のたとえ」があり、次のように書いてあるのです。「もし、それを見つけたら、迷わずにいた 99 匹より、その 1 匹のことを喜ぶだろう」。この最後の人々については、「99 匹を山に残しておいて、迷い出た 1 匹を捜しに行き、見いだした喜び」を思い起こさせているのです。つまり、この最後の人々への一デナリオンは、もちろん報酬ではなく、恵みであると共に、天にある喜びまでもが表現されているということなのです。

このたとえを耳にした私たちは、17 節以降でイエスの受難予告を聞くようにと招かれています。このことが明らかにしているのは、「見て、憐れに思った」神は、御子イエス・キリストの十字架の死と復活によって、私たちすべての者に、罪の赦しと新しい命とを与えてくださったという事実です。決して人の行いに応じた報酬としてではなく、神の憐れみに基づく恵みとして、すべての人々に備えられた憐れみであり、愛なのです。この、神の愛溢れる御心によって、私たちは自らのやったことではなく、神の恵みのうちにすべての人々と共に天にある喜びにあずかって、生きるのです。今日与えられたたとえを通して示されている、恵みの事実なのです。

40年前の小さな礼拝

○田 ○子

40年前、藤が丘教会の礼拝は、小さな古い平屋建て民家（牧師の住居）の一室にて始まりました。陽の当たる庭に面したその礼拝室（牧師宅の居間）には、門から庭にまわり、縁先で靴を脱いで、縁側から出入りした覚えがあります。その部屋は畳の上に絨毯が敷かれ、そこに椅子やソファー、テーブル等を置いた、昔で言うところの和洋折衷。6畳くらいの大きさを、牧師と教会員数名ですぐに一杯になる広さでした。時にはソファー

で説教を聞き、トイレも牧師宅のトイレを拝借して、言わば毎週、牧師一家の生活空間にお邪魔しての礼拝ではありました。

そんな状況でしたが、マンションの一室での礼拝を守っていた新町教会員の私にとっては、いつものなじみの光景。こじんまりした礼拝に、なんの違和感や抵抗感を感じることもなく「ごく当たり前の、日常の礼拝」として受け取っていました。

しばらくしてプレハブの礼拝堂が完成して、藤が丘教会は「独立した礼拝堂」を手に入れ、礼拝環境が整備されました。一教会員として、大きな感謝でした。

○原○輔さんの思い出

定○○子、山○○子、田○○夫、プ○○ン○梨&○野○苑

○原○輔さんは、2023年9月4日、入院されていた病院にて、召天されました。64歳でした。CS校長として、また礼拝での映写担当として、長らくご奉仕くださいました。数名の方々に思い出を書かせていただきました。

「○原さんを偲んで」

○原さんと初めてお会いしたのは、藤が丘教会の玄関前の道路でした。

少しでも日曜学校のお手伝いができたらと思い、日曜学校礼拝に出席しようとした時でした。

柔和なお顔で、優しく出迎えて下さいました。いつもこうして、子どもたちをお迎えされているのだなと思わされました。

帰る方向が同じでしたから、何度か電車の中でお話をさせていただきました。

特に印象に残っているのは、奥様もクリスチャンだが、教会付属の幼稚園で園長をしているので、奥様はその教会の礼拝に出席していると言うお話でした。少し残念そうに、でもなんだか誇らしげにお話されていました。

今でも感謝しているのは、○原さんが藤が丘教会に転会して間もない私を信頼して受け入れて下さったことです。

彼の国でも子どもたちを集めて、教会学校をされているのかな？と想像してしまいます。（定○）

○原兄が、ほとんど休むことなく、毎週日曜日に朝早くから子どもたちを迎えていたことは、教会に来られている皆さん誰もが知っている事と思います。子どもたちのために、それほど長く、継続して教会学校の校長を務めてくださったことに敬服し、心から感謝しております。



●クリスマス祝会にて。(2011)

口数はそれほど多くありませんでしたが、子どもが好きで、子どもをみるとすぐにそばにいて話しかけている姿が、今でも思い起こされます。昨年から体調が優れないということが目に見えてきて、調子を伺ったりしておりましたが、弱音を一切言わない方だったので、奥様の〇さんにも様子を伺ったりしておりましたが、ご自宅でも、体調に関してはあまり言わなかったようです。本当に忍耐強い方でした。

葬儀の日、棺の中での〇原兄にお会いした時、言葉は適切ではないかもしれませんが、とても神々しく感じました。辛かったであろう病との戦いに勝利して、安らかに召天され、神様のみ国で安心しているようにも見えました。これからは、天国で、神様と一緒に、ご家族をお守り支えてくださることと思います。

〇原兄、今まで本当にありがとうございました、お疲れさまでした！

主よ、みもとに召された我々の兄弟に、永遠の安らぎを与え、あなたの光の中で憩わせてください。アーメン。(山〇)

〇原〇輔さんのお働きと足跡

9月4日午前10時、佐藤先生から〇原〇輔さんの召天の知らせを頂いた時、ただただ無念で目頭が熱くなりました。それから9日土曜日の葬送式までの六日間、彼との思い出が走馬灯のように駆け巡ると共に、今までの教会の記録の中に彼の姿を探していました。

彼は、数年前に体調を崩すまでの長年に渡り、毎週、礼拝式文の投影作業を黙々と遂行してくださいました。嫌な顔も疲れた顔も見せず、かと言って笑いもせず、信徒の皆さんが前を向いて礼拝に参加できることを願って作業してくれてきたのです。そして、もう一つの大きな働きは、教会学校の教師及び校長として数十年間に渡りご奉仕をしてくださいました。教会学校での彼は、式文投影の時の

表情とはうって変わって満面の笑みで子ども達を迎え、その笑顔の中に子ども達を温かく包み込む彼の優しさが溢れ出ていたように思います。人に阿る事ことはせず、ただただシンプルに藤が丘教会と教会学校の子ども達を愛した人でした。今までのお働きに感謝すると共に、今、神様のみ許でゆっくり過ごしているとは思いつつも、この世ではもう二度と会う事ができないと思うと残念で仕方ありません。

平安を祈りつつ、ご家族の上に神様の癒しがありますように。(田〇)

覚えている限り、私たちの日曜日は教会学校で始まっていました。教会への坂を登ると、そこにはいつも〇原先生の姿がありました。晴れていても、雨が降っていても、教会の入り口で待っていてくれました。そして、いつも「おはよう！」と私たちを元気に迎えてくれました。この習慣は私たちがCSを卒業し、私たちも〇原先生と一緒にCSで子どもたちにお話する立場になっても変わりませんでした。月の一週目に開催していた誕生日会では、誰よりも嬉しそうに「おめでとう！」と祝ってくれたのを覚えています。

〇原先生が教会にいと、その周りには笑っている子どもの声が聞こえていました。笑顔が絶えない楽しい時間を一緒に過ごせたことを、とても幸せに思っています。〇原先生の響きわたる笑い声がもう聞けないと思うと、悲しみに心が痛みます。イエス様と一緒に、今は天国の子ども達を楽しませていると思います。〇原先生、ありがとうございました。(プ〇〇ン〇梨 / 〇野〇苑)



●CS 教師就任式にて (2009)

坂道から 634m のスカイツリーへ

神学校牧師養成コース3年 大〇 〇子

駅からの坂道をきつく感じるようになったのは、7月初めからの猛暑、年齢、そして何よりも藤が丘教会での実習が終わってしまう寂しさからでした。1年4か月間の藤が丘教会での実習が7月で終わりました。長いようで短いあつという間の1年4か月間であったように感じています。

この間、昨年8月に母のたった一人の妹である叔母が召天し、12月に父を100歳7か月で見送り、1月に従兄が突然召天しました。そして今年になって親しい方が次々召天され、特に、1年生のときの実習教会であった東京池袋教会の三浦知夫先生が約1年間の闘病の末、召天されたことは私にとって、未だ信じられない悲しく、寂しい出来事でした。そして昨年8月から夫の抗癌剤治療が始まり1年が経過しました。92歳の義母と母はそれぞれ穏やかに施設で過ごしていますが、これらのことから私にとって死が身近な問題となり、どのように死を迎えたらよいのか、そのときまでどのように生きていけばよいのか、どのように家族は支えていったらよいのか考えなければならぬことも多くありました。小学校を定年退職と同時に神学校で学び始めました。このまま学び続けることができるのか不安を感じることもありました。何とかここまで続けることができたのも、多くの方の祈りに支えられているからで、感謝するばかりです。

藤が丘教会は、今年宣教40年の記念の年、昨年度は、神学生として、宣教40年に向けて実施されたアンケートの分析をし、宣教委員会、信徒懇談会で発表の機会を与えていただきました。授業で教会創立当時の牧師であられた江口再起先生から当時の様子について聞き、創立当時からの信徒の方からも、懐かしいお話を伺い、また新しい方々からも、

これまでの教会の歩みを伺い、周年誌に収まりきれない、教会に対する熱い思いを感じることができました。皆さんの「藤が丘愛！」がこれまでの教会を築き、そして新しい歩みも続けられていくことでしょう。信徒の高齢化、減少はどこ教会でも厳しい切実な課題となっています。牧師が足りないだけでなく、信徒数の減少、経済的な厳しさはルーテル教会に限らず教派を問わず厳しい課題です。しかし藤が丘教会の皆さんが、奉仕についてはできる方ができる形でやっていくことをいつも確認し合い、皆さんが助け合い、できることを喜びをもって取り組んでおられる姿にこれからの教会の力を感じていました。特に今年5月から始まった「虹の広場」の活動は、地域のニーズに応え、地域に仕える活動として素晴らしい取り組みで、ますます発展していくことでしょう。

役員会に陪席していましたが、信徒の皆さんがご自分の意見を役員の方に自由に伝えて、役員会でもおひとりの意見であっても蔑ろにせずに取り上げて考えていました。ひとりの意見は、声にならない数人の意見であることを推測しての配慮なのだと思います。そしてそのおひとりの意見も「藤が丘愛！」から湧き出たご意見なのだと思います。ときに建設的でないこともあるかもしれませんが、小さな声に耳を傾ける役員会の在り方は、私にとって大変貴重な学びとなりました。学校という組織で長いこと仕事をしてきた私は、合理的に効率よく物事を決め、運営していく手立てが身につけてしまっているので、教会と学校の根本的な違いを学ぶ機会となりました。

8月13日からはいよいよ聖パウロ教会での宣教研修が始まります。聖パウロ教会はベタニヤホーム、菊川保育園が併設されている教

会ですし、スカイツリーを間近に見ることができる地域は、藤が丘教会とはかなり異なります。宣教研修では日曜日だけではなく、週日の牧師の働きを学ぶことになります。併設されている施設や保育園での奉仕も求められるので、また多くのことを学ぶことができます。いろいろな家庭の問題はありますが、神様に全てを委ねて、これからの学びを続けていきたいと思っております。

藤が丘教会での皆様との出会い、交わりは私にとって大きな宝物であり、これからの学びを続けていく力となっています。すべてのことに感謝して祈りを中心に据えて日々歩んでいきたいと思っております。藤が丘教会のますますの発展と、皆さんの心身の健康が守られますように、そして若い力がもっともっと加えられることをお祈りしております。

●女性会だより

9月17日 12名出席
司会 お祈り 小○姉／讃美歌 171番

- 1 聖書の学び 詩編8編5節
大変有名な箇所である。創世記の天地創造の場面からつながっている。天地を造られた神様から私達も造られて、私達に心を留めて下さる。すべての人に目を向けて下さる神様の御心がある。

2 女性会例会

①連絡事項

秋の女性の集い 10月28日10時～15時 大岡山教会
ACWC 11月九段下の救世軍教会にて。詳細については石田姉まで。
東教区女性会総会 2024年2月ルーテル三鷹教会
世界祈禱日 2024年3月 詳細については改めてお知らせする。

今月、受洗記念日を迎えた方々

11日 清○集兄、○藤かき○姉
13日 ○飼由○子姉、○林○也兄
24日 清○○子姉 25日 ○田○一郎兄
27日 ○崎ま○か姉



28日 ○村○樹兄
29日 ○山○兄、
○山○子姉

おめでとう
ございます。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。
どんなことにも感謝しなさい。」

テサロニケの信徒への手紙一5章16-18節a

●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから。



女性会連盟総会 2023年6月7日
-8日。東京教会で開催

②話し合い

○田姉から資料配布

今後については藤が丘教会としての意見をまとめ、10月の秋の女性の集いで意見、提案をお伝えする。

(スリム化、組織のあり方について
会費について、教区役員の選出方法
について等々)

10月の例会で再度、質問や意見を話し合う予定。

次回例会は10月15日 12時半から



👉スマートフォンで、こちらのQRコードを読み込むと、教会のさまざまな情報を、確認出来ます。